

ローマ人への手紙 第8章 35～39節

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか（35節）・・・そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません（39節）

あるカトリックの司祭は、感染症拡大によりミサができない状況から、かつて政治的迫害によって 250 年もの長い間ミサを受けることができなかった潜伏キリシタンに思いを馳せていた。

瞬きの詩人と言われた水野源三は生涯一度も教会堂に集うことができなかったが、溢れるばかりの神への感謝、賛美を多くの詩に遺した。

新約聖書に多くの手紙が載せられているパウロも幾度となく捕らわれの身となり、愛する兄弟姉妹と共に主を賛美することができなかったことは数知れないだろう。

迫害や困難などの様々な理由で集うことを許されなかったこれら多くの先人たちの本当の思いを測り知ることはできない。しかし、どんな状況下にあったとしても、堅固な神の愛に捕らえられ、それを覚え、それに根差していたことだけは間違いないであろう。